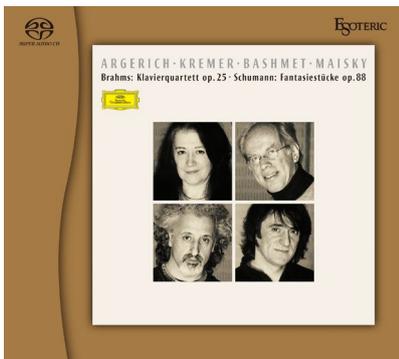


ESOTERIC 名盤復刻シリーズ スーパーオーディオ CD 9月13日発売新タイトルのお知らせ

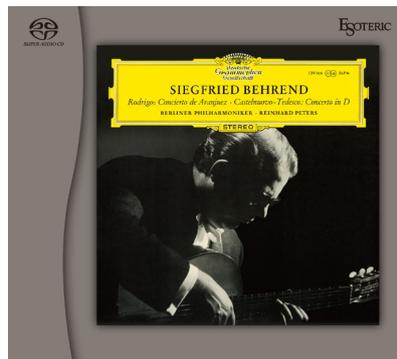
ESOTERIC(エソテリック)は、「ESOTERIC 名盤復刻シリーズ」スーパーオーディオ CD ハイブリッド盤 3 作品を発売開始いたします。社内に構築した「エソテリック・マスタリング・センター」にてリマスタリングを行いました。定評の丁寧なマスタリング作業に、独自のデジタル技術を駆使して開発した「Esoteric Mastering」の音楽表現力が加わり、さらなる感動をお届け出来るスーパーオーディオ CD に仕上がっています。



ブラームス:ピアノ四重奏曲 第1番
シューマン:幻想小曲集 作品 88

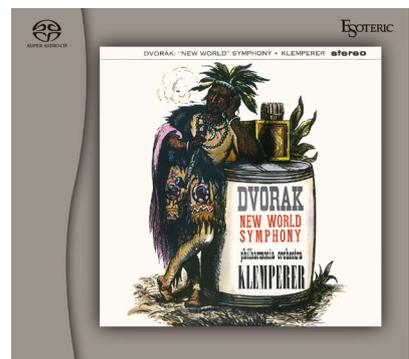
マルタ・アルゲリッチ (P)
ギドン・クレーメル (Vn)
ユーリ・バシュメット (Va)
ミツシャ・マイルスキー (Vc)

品番: ESSG-90311
定価: 4,000 円 (税込)



ロドリゴ:アランフェス協奏曲
カステルヌオーヴォ=テデスコ:ギター協奏曲
ヴィゼー:組曲、パッサ:リュート組曲、ジュリアーニ:ロンド、ペーレント:日本民謡によるソナチネ 他
ジークフリート・ペーレント (ギター)
ラインハルト・ペーターズ 指揮
ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団

品番: ESSG-90312
定価: 4,000 円 (税込)



ドヴォルザーク 交響曲 第9番《新世界より》
シューベルト 交響曲 第8番《未完成》

オットー・クレンペラー 指揮
フィルハーモニア管弦楽団

品番: ESSW-90313
定価: 4,000 円 (税込)

ESOTERIC 正規特約店 独占販売

ESOTERIC 名盤復刻シリーズは、ESOTERIC 正規特約店の独占販売で、主にオーディオ販売店で販売されます。ESOTERIC 正規特約店につきましてはホームページ、または「AV お客様相談室」へお問い合わせください。

ESOTERIC 正規特約店 https://www.esoteric.jp/jp/support/authorized_dealers

AV お客様相談室

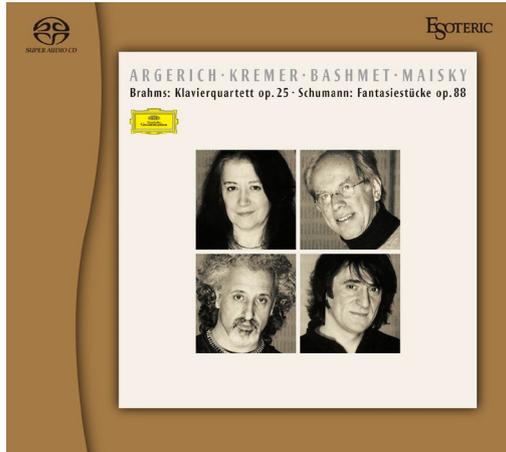
Tel 042-356-9235 / 0570-000-701(ナビダイヤル) / Fax 042-356-9242

受付時間: 10:00~12:00/13:00~17:00 (土・日・祝日・弊社休業日を除く)

ブラームス:ピアノ四重奏曲 第1番 シューマン:幻想小曲集 作品88

マルタ・アルゲリッチ (P)・ギドン・クレーメル (Vn)
ユーリ・バシユメット (Va)・ミツシャ・マイスキー (Vc)

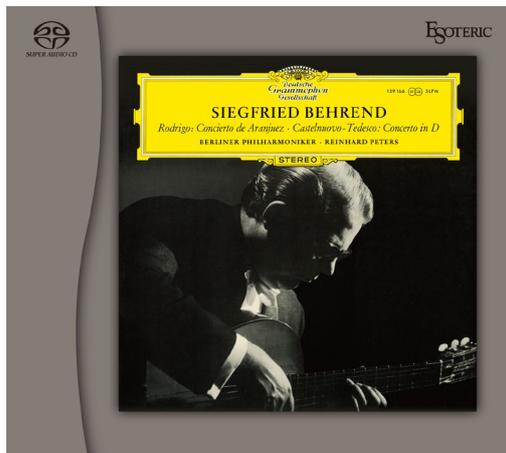
- 品番: ESSG-90311
- 仕様: Super Audio CD ハイブリッド
- 定価: 4,000 円 (税込)
- JAN: 4907034225927
- レーベル: Deutsche Grammophon
- 音源提供: ユニバーサルミュージック合同会社
- ジャンル: 室内楽
- DSD Mastering
- Super Audio CD 層: 2 チャンネル・ステレオ
- 美麗豪華・紙製デジパック・パッケージ使用



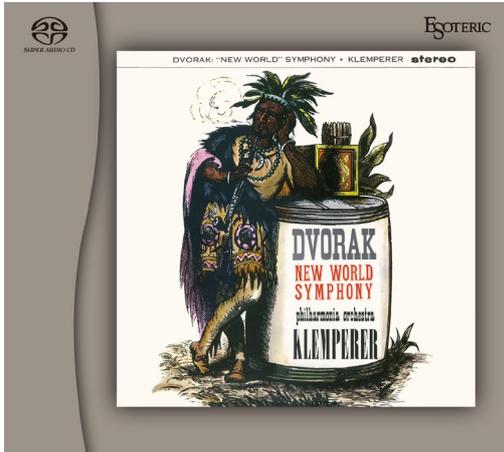
ロドリゴ:アランフェス協奏曲 カステルヌオーヴォ=テデスコ:ギター協奏曲 ヴィゼー:組曲 バッハ:リュート組曲 ジュリアーニ:ロンド ベーレント:日本民謡によるソナチネ 他

ジークフリート・ベーレント (ギター)
ラインハルト・ペータース 指揮
ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団

- 品番: ESSG-90312
- 仕様: Super Audio CD ハイブリッド
- 定価: 4,000 円 (税込)
- JAN: 4907034225934
- レーベル: Deutsche Grammophon
- 音源提供: ユニバーサルミュージック合同会社
- ジャンル: 協奏曲/器楽曲
- DSD Mastering
- Super Audio CD 層: 2 チャンネル・ステレオ
- 美麗豪華・紙製デジパック・パッケージ使用



**ドヴォルザーク 交響曲 第9番《新世界より》
シュューベルト 交響曲 第8番《未完成》**



オットー・クレンペラー 指揮
フィルハーモニア管弦楽団

- 品番: ESSW-90313
- 仕様: Super Audio CD ハイブリッド
- 定価: 4,000 円 (税込)
- JAN: 4907034225941
- レーベル: Warner Classics
- 音源提供: 株式会社ワーナーミュージック・ジャパン
- ジャンル: 交響曲
- DSD Mastering
- Super Audio CD 層: 2チャンネル・ステレオ
- 美麗豪華・紙製デジパック・パッケージ使用

【製品ページ】

- ESSG-90311 <https://www.esoteric.jp/jp/product/essg-90311>
 ESSG-90312 <https://www.esoteric.jp/jp/product/essg-90312>
 ESSW-90313 <https://www.esoteric.jp/jp/product/essw-90313>

報道関係からのお問い合わせ、掲載用画像データなどのご用命はこちらまでお願いいたします。

ティアック株式会社

プレミアムオーディオ事業部 海外営業・販売促進部 販売促進課 (担当: 吉田)

TEL: 080-4164-2931

E-mail: pr.audio@teac.jp

読者からの製品問い合わせ窓口は、下記を掲載するようお願いいたします。

ティアック株式会社 AV お客様相談室 〒206-8530 東京都多摩市落合 1-47

Tel 042-356-9235 / 0570-000-701 (ナビダイヤル) / Fax 042-356-9242

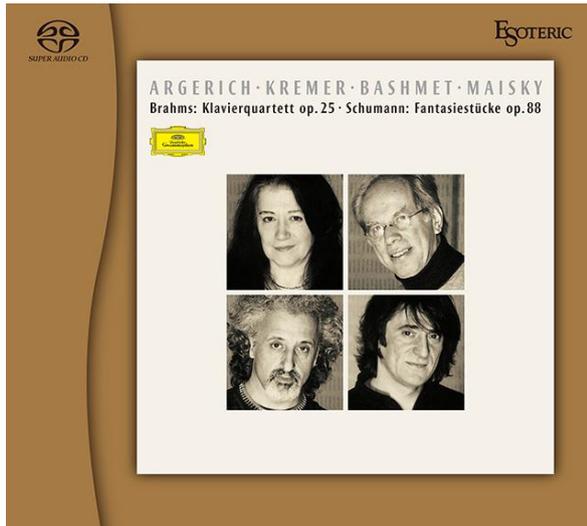
ESOTERIC ブランドサイト <https://www.esoteric.jp/jp/>

ESOTERIC ブランド SNS:

X(Twitter): https://twitter.com/ESOTERIC_Japan

Facebook: <https://www.facebook.com/esoteric.company/>

Instagram: https://www.instagram.com/esoteric_audio_official/



ブラームス:ピアノ四重奏曲 第1番
シューマン:幻想小曲集 作品 88

マルタ・アルゲリッチ(ピアノ)
ギドン・クレーメル(ヴァイオリン)
ミッシェル・マイスキー(チェロ)
ユーリ・バシメット(ヴィオラ)[ブラームスのみ]

品番:ESSG-90311
仕様:Super Audio CD ハイブリッド
価格:4000 円(税込)
JAN:4907034225927
レーベル:DEUTSCHE GRAMMOPHON
音源提供:ユニバーサルミュージック合同会社
ジャンル:室内楽曲



[アルバムの特徴]

名門レーベルだからこそなし得ることができた、各界のスーパースターを一同に介した 21 世紀不朽の名演奏

■ESOTERIC ならではのこだわりの Super Audio CD ハイブリッド・ソフト

オリジナル・マスター・サウンドへの飽くことなきこだわりと、Super Audio CD ハイブリッド化による圧倒的な音質向上で継続して高い評価をいただいている ESOTERIC による名盤復刻シリーズ。発売以来決定的名盤と評価され、現代にいたるまでカタログから消えたことのない名盤をオリジナル・マスターから進化したテクノロジーと感性とによって DSD マスタリングし、世界初の Super Audio CD ハイブリッド化を実現してきました。今回はドイツ・グラモフォンの名盤から、代表する名演・名録音を Super Audio CD ハイブリッドで発売いたします。

■20 世紀後半～21 世紀における最高峰に位置するピアニスト、アルゲリッチ

20 世紀の後半以降を代表するピアノの巨匠、アルゼンチンのブエノスアイレス生まれのマルタ・アルゲリッチ。彼女が国際的に注目されたのは、1957 年のジュネーヴ国際コンクールで第 1 位になってからです。その時の第 2 位がああポーリーニということからもアルゲリッチの実力が分かっていただけだと思います。その後、フリードリヒ・グルダに師事したアルゲリッチは、ヨーロッパ各地で演奏して評判になり、1960 年にドイツ・グラモフォンにデビュー盤を録音、これも大いに話題になりましたが、なんと翌年から活動を中断します。そして 1965 年にショパン国際コンクールに優勝。その後は着実に演奏と録音活動を再開しました。それからの活動は順風満帆、現在までピアノ界を牽引するかのよう第一線で活躍しています。

■この半世紀、室内楽を中心に活動していたアルゲリッチの代表的な 1 枚

1970 年代に入ると、それまでのソロ活動よりも、親しくなったネルソン・フレイレやスティーヴン・コヴァセヴィチに代表されるピアニストたちとのデュオによるレパートリーが目立つようになりまし。さらにそれに加え、室内楽の演奏と録音も次第に多くなってきます。ベルリン・フィルを退団直後のフルート奏者ジェイムズ・ゴールウェイと 1975 年に録音したフランクとプロコフィエフのフルート・ソナタを皮切りに、そして 1980 年代になるとソロ活動はほとんどなくなります。チェロの大御所ムスティスラフ・ロストロポーヴィチとのソナタ、そしてとくに重要な役割を果たしたのはチェロのミッシェル・マイスキーとの共演でした。本シリーズでもリリースされたシューベルトのアルペジオーネ・ソナタ、シューマンの幻想小曲集 etc, など極め付けの名演を多く残しています。このようにアルゲリッチはソロ活動から離れ、室内楽、ピアノ・デュオ、協奏曲を中心にここ半世紀は演奏活動を行ってきたのです。本作品はその中でも世界的名手を集め、彼女が精力的に行ってきた室内楽演奏の代表的な 1 枚といえる素晴らしい内容、出来栄です。

■各ジャンルの第一人者が一堂に結集したスーパー・クワルテット



ミッシェル・マイスキーは 1948 年に現在はラトヴィア共和国の首都リガに生まれた、現在ナンバーワンのチェロ奏者です。8 歳からチェロを始め、モスクワ音楽院でロストロポーヴィチに師事していた 1970 年にソ連当局の罠で約 1 年半を強制収容所で過ごした後に亡命、1973 年に渡米してピアティゴルスキーに師事、カサド国際コンクールに優勝して演奏活動をはじめました。1976 年にギトリスが主宰するヴァンス音楽祭でアルゲリッチに出会ってからは世界中で共演、バッハ、ベートーヴェン、ブラームスのソナタなどの録音も行っています。

ヴァイオリンのギドン・クレーメルも 1947 年リガ生まれ。1965 年からモスクワ音楽院でオISTRAフに師事して 1970 年のチャイコフスキー国際コンクールに優勝後は世界的に活躍していましたが、1980 年に自由な活動を求めてソ連から西ドイツに亡命。すぐに同郷のマイスキーに紹介されたアルゲリッチのバルトークのソナタを聴いて即座に共演を依頼しました。そして彼が 1981 年から開始したロッケンハウス音楽祭をはじめ世界各地で共演し、ベートーヴェンのヴァイオリン・ソナタ全集もアルゲリッチと録音しています。ヴァイオリン奏者ユーリ・バシメットは 1953 年ウクライナ、ロストフ生まれ。圧倒的なテクニックと変幻自在の表現力によってヴァイオリンという楽器の異本的概念をくつがえし、独奏楽器としてのヴァイオリンの可能性を広げたスーパー・ヴァイオリストです。8 歳でヴァイオリンを始め、14 歳でヴァイオリンに転向、1971 年にモスクワ音楽院に入学し、ソロ、アンサンブル等、多方面に活躍しているヴァイオリン奏者の頂点に数十年君臨しているスーパー演奏家です。

■ドイツ・ロマン派を代表する名曲に新たな息吹を注いだ巨匠達による名演奏

2 曲ともシューマン夫人クララが初演後、ドイツ・ロマン派を代表する名曲として知られ、ブラームスは多くのピアニストが弦楽四重奏団のメンバーと録音してきましたが、アルゲリッチと 3 人の名手との隙のない緊密な共演、シューマンはアルゲリッチとの親密な音楽関係を築きあげている巨匠 2 人による共演で、作品の真価と魅力をさらに高めた名演が展開されています。



ブラームスのピアノ四重奏曲には、シェーンベルクの編曲による管弦楽版があります。シェーンベルクはこの曲に交響曲的な要素を感じたということでしょう。そして実際この編曲は成功し、ブラームスの交響曲第5番などとあだ名で呼ばれることもあります。この曲が、4つの楽器ががっちりと一体になった、シンフォニックな作品だということは、当然の前提となっているのです。実際、管弦楽版だけでなく、オリジナルの演奏でも、そのような演奏がなされるのが一般的なのですが、アルゲリッチらの演奏はそのようなシンフォニックな解釈とは対極。この演奏では、アルゲリッチが、その個性的なピアノで弦楽器の3人をぐいぐい引っ張っていきます。その辺りをじっくり聴き取っていただければと考えています。

若い頃からシューマンを得意にしている、多くのピアノ・ソロ演奏もレコーディングしているアルゲリッチですが、こちらもやはり、彼女の主導により曲に新たな側面を感じさせる演奏になっています。

■名門クラシック・レーベルならではの起死回生、超名演奏の記録

1998年1月、ハンブルクのフィッシャーマンズワーフはドイツ・グラモフォン100周年を祝う盛大なパーティで賑わいました。そしてそれは新たな旅立ちを世界中の音楽関係者に示す発表の場でもあったのです。その当時のグラモフォンはレパートリーの見直しを積極的に行っていました。頑なに拒んでいたアンドレ・プレヴィンに40年以上前に手掛けていたジャズの演奏を、パンク・ロックの雄エルヴィス・コストロに自作のオーケストラ作品をレコーディングさせたり、広いジャンルに志向を広げていました。80年代まではオペレッタ(喜歌劇)でさえ1作品くらいしか制作しなかった硬派のレーベルが、です。祝賀会場は基本的には立食形式でしたが、グラモフォンの所属するポリグラム・グループの総帥アラン・レヴィ、カラヤン未亡人、ヴァイオリニストのアンネ=ゾフィー・ムター、チェリストのマイスキーなどには貴賓席が用意され、ステージではアンネ・ソフィー・フォン・オッターとクリスティーネ・シェーファーがデュエットでコール・ポーターの「Just Do It」を指揮者クリスティアン・ティーレマンのピアノ伴奏で歌います。真打ちは貴賓席に座していたジプシー・ヴァイオリニスト、ラカトシュと彼のグループによる演奏で、カラヤン夫人がそれに合わせて踊り、世間にラカトシュの存在を植え付けようとしていました。まさに新生グラモフォンのお披露目のようなイベントだったのです。会場の末席には解散を決定されたグラモフォンの古楽レーベル“アルヒーブ”の面々が苦々しく、寂しげに立っています。これからのグラモフォンはどうなるのだろう、関係者の不安とかなげな期待が入り混じった表情が印象的でもありました。

それから数年、そんな不安を吹き飛ばすかのように、ファンが待ち望んだグラモフォン本来の姿を示す名盤、アルゲリッチとスーパー弦楽奏者による演奏が、ここに誕生したのでした。当然のことながら大好評を博し、2003年度レコード芸術誌「レコード・アカデミー賞」では大賞に次ぐ“銀賞”を獲得しています。

レコーディングが行われたのはベルリンのテルデック・スタジオ。ホールではありませんが、最近では使用頻度の一番高いスタジオで、クラシック音楽に最適な美しい余韻が関係者の間でもかなり高い評価を得ています。



本作もこれまで同様、使用するマスターの選定から、最終的な DSD マスタリングの行程に至るまで、妥協を排した作業をおこないました。特に DSD マスタリングにあたっては、「Esoteric Mastering」を使用。入念に調整された ESOTERIC の最高級機材 Master Sound Discrete DAC と Master Sound Discrete Clock を投入。また MEXCEL ケーブルを惜しげもなく使用することで、オリジナル・マスターの持つ情報を伸びやかなサウンドでディスク化することができました。

■アルゲリッチと 3 人の名手との隙のない緊密な共演で作品の真価と魅力が高められる

はっとするようなニュアンスでアルゲリッチが奏でるテーマから演奏に引き込まれる。ダイナミックは蚊の羽音のようなピアノシモから大山を動かすフォルティッシモまで幅広く、表現も実に多彩。緩徐楽章など別世界に連れ去られるような感があるが、これも先行楽章の緊張感あつてのこと。終楽章は踊り狂うようなリズムで熱狂的に締めくくられる。

(『クラシック不滅の名盤 1000』より)

ブラームスのピアノ四重奏曲は多くのピアニストが弦楽四重奏団のメンバーと録音してきたが、アルゲリッチと 3 人の名手との隙のない緊密な共演は、作品の真価と魅力をさらに高めた名演であり、今回のハイブリッド盤は、その演奏と録音のすばらしさをより鮮明に満喫できるディスクである。

(本ディスク・ライナーノーツより抜粋・浅里公三氏)

シンフォニック的要素を持つブラームス作品だが、ここでは従来のこの曲のイメージを打ち破る名演となっている。結果として、4 人で弾いているにもかかわらず、この楽章全体がアルゲリッチの個性が充溢した音楽となる。第 4 曲〈フィナーレ〉は、ピアノ・ソロで始まるわけではないにもかかわらず、歯切れの良いリズム感にはアルゲリッチの個性が感じられる。もちろん、クレーメルやマイスキー、それにブラームスでのバシュメットも非の打ち所のない演奏を繰り広げているのだが、やはり両曲とも、アルゲリッチの室内楽だということが言えるだろう。

(本ディスク・ライナーノーツより抜粋・増田良介氏)

[収録曲]

ヨハネス・ブラームス Johannes Brahms
ピアノ四重奏曲 第 1 番 ト短調 作品 25
Piano Quartet No. 1 in G minor, Op. 25

1. 第 1 楽章: Allegro
2. 第 2 楽章: Intermezzo (Allegro ma non troppo)
3. 第 3 楽章: Andante con moto
4. 第 4 楽章: Rondo alla Zingarese (Presto)

ロベルト・シューマン Robert Schumann

幻想小曲集 作品 88

Fantasiestücke, Op. 88 for Piano, Violin and Violoncello

5. 第 1 曲:Romanze (Nicht schnell, mit innigem Ausdruck)
6. 第 2 曲:Humoreske (Lebhaft)
7. 第 3 曲:Duett (Langsam und mit Ausdruck)
8. 第 4 曲:Finale (Im Marschtempo)

マルタ・アルゲリッチ(ピアノ)

Martha Argerich, Piano

ギドン・クレーメル(ヴァイオリン)

Gidon Kremer, Violin

ユーリ・バシュメット(ヴィオラ)[1-4]

Yuri Bashmet, Viola

ミツシャ・マイスキー(チェロ)

Mischa Maisky, Violoncello

[録音]2002年2月、テルデック・スタジオ、ベルリン

[海外盤初出]463 700-2(2004年1月5日)

[日本盤初出]UCCG-1121(2003年10月8日)

[オリジナル・レコーディング]

[エグゼクティブ・プロデューサー]T・ソン、エドワルト・マルク

[レコーディング・プロデューサー]シド・マクラクラン

[レコーディング・エンジニア]ライナー・メイラード

[テープ・エディター]ハンス・ユーリッチ・バステイン

[Super Audio CD リマスタリング]

[Super Audio CD プロデューサー] 大間知基彰(エソテリック・マスタリング・センター)

[Super Audio CD アソシエイト・プロデューサー] 吉田穰(エソテリック・マスタリング・センター)

[Super Audio CD リマスタリング・エンジニア] 東野真哉(エソテリック・マスタリング・センター)

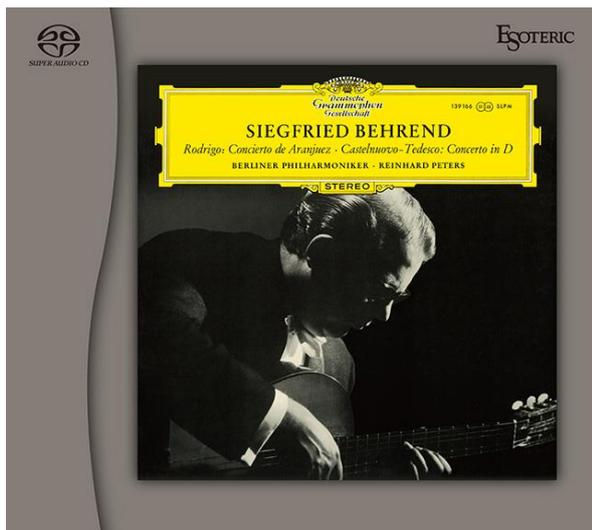
[[Super Audio CD リマスター] 2025年5月 エソテリック・オーディオルーム、「Esoteric Mastering」システム

[解説] 浅里公三 増田良介

[企画・販売] ティアック株式会社

[企画・協力] 東京電化株式会社





ES Esoteric
Mastering

[アルバムの特徴]

ロドリゴ:アランフエス協奏曲
カステルヌオーヴォ=テデスコ:ギター協奏曲
ヴィゼ:組曲
バッハ:リュート組
ジュリアーニ:ロンド
ベーレント:日本民謡によるソナチネ 他

ジークフリート・ベーレント(ギター)
ラインハルト・ペーターズ指揮
ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団

品番:ESSG-90312
仕様:Super Audio CD ハイブリッド
価格:4000 円(税込)
JAN:4907034225934
レーベル:DEUTSCHE GRAMMOPHON
音源提供:ユニバーサルミュージック合同会社
ジャンル:協奏曲/器楽曲

ベルリン・フィルの名手たちと奏でられる鮮鋭な表現による協奏曲とソロ曲における確かな様式感！

■ESOTERIC ならではのこだわりの Super Audio CD ハイブリッド・ソフト

オリジナル・マスター・サウンドへの飽くことなきこだわりと、Super Audio CD ハイブリッド化による圧倒的な音質向上で継続して高い評価をいただいている ESOTERIC による名盤復刻シリーズ。発売以来決定的名盤と評価され、現代にいたるまでカタログから消えたことのない名盤をオリジナル・マスターから進化したテクノロジーと感性とによって DSD マスタリングし、世界初の Super Audio CD ハイブリッド化を実現してきました。今回はドイツ・グラモフォンの名盤から、代表する名演・名録音を Super Audio CD ハイブリッドで発売いたします。

■幅広く音楽を探求していた現代の音楽家の側面を持つギタリスト、ベーレント

ドイツのジークフリート・ベーレント(1933-1990)は、スペインのナルシソ・イエペス、イギリスのジュリアン・ブリームやオーストラリアのジョン・ウィリアムズとともに 1950 年代から活躍した名手のひとりです。

ベルリン生まれのベーレントは、16 歳からクリントヴォルト=シャルヴェンカ音楽院でピアノ、作曲、指揮を学びますが、すぐれたギタリストだったといわれる父の勧めもあり、次第にギターに関心を抱くようになり、バルトークの《ミクロコスモス》などギター以外の器楽曲から独学で楽曲を学び約 1 年で習得したといえます。1952 年にライブツィヒでリサイタル・デビュー後、ベルリンをはじめドイツ各地でリサイタルを開き、56 年にスペイン、58 年にはソ連へ巡演し、58 年から 59 年にかけて最初の世界旅行を行ない、ミュンヘン近郊のローゼンブルク城では毎年マスタークラス講習会を開催しました。1950 年代の後半にはドイツを代表するギタリストとして名声を高めたベーレントは、1958 年に第 20 回国際ギタリスト会議を主催、1962 年には第 21 回を初来日して日本で開催するなど、その活動

は演奏だけにとどまらず企画・運営にまで及び、またブソッティ、ハウベンシュトック=ラマティ、ペンデレツキ、イサン・ユンなど、20世紀を代表する前衛作曲家たちに積極的に新作を委嘱、初演しているように、単なる古典ギター曲を演奏するギタリストではなく、現代音楽家でもありました。



録音も 1950 年代の後半以後、バロックから現代までの自作を含む「ギターの歴史」、自身の編曲によるモーツァルト、シューベルトの歌曲と世界の民謡による「ギターのロマンス」などをドイツ EMI に行なっています。

■ 不完全な楽器、ギター。その魅力は切なく深い魅力とは

1959 年、アンドレス・セゴビアが二度目の来日をし、翌年「禁じられた遊び」でその名を轟かしたナルシソ・イエペスが初来日、日本はギター・ブームになりました。数年後、ビートルズ、ベンチャーズが台頭、しかし家庭では「エレキは不良になる」と言われ、しょうがなくクラシック・ギターを抱えていた若者が多く、ギター・ケースを持ち歩いていた人が街にあふれ、数多くのギター教室も生まれていました。ピアノほど高価ではなく、手頃なものも人気になった要因でしょう。ただしギターという楽器はクラシック音楽の仲間入りをするには、何ともハードルの高い楽器でした。ピアノと比べて1オクターブ内で最大4つの和音しか出せない構造になっていること。俗に言うクローズドヴォイスニングが限られるため、弾ける楽曲が限られてしまうのです。それに加えてヴァイオリンのような擦弦楽器ではなく撥弦楽器のため、大きな音量を出すのが困難、この2つの大問題があるのです。ただしそれを凌駕するような魅力があります、それは音色です。武満徹氏などはギターの音色に魅せられていた一人で、いくつもの編曲作品を発表していますし、掛け替えのない不完全な魅力、それをギターは秘めているのです。

■ 60 年代、日本のクラシック・ギター・ファンに愛されたベーレント

日本のギター・ファンが切望していたのは世界的なギタリストの来日公演です。しかし、1963 年に 22 歳でジョン・ウィリアムズが来日はしたものの、イエペス以外なかなか頻繁には来日公演は行われませんでした。そうした中、ベーレントは 65 年以降も 5 回来日し、当時の日本では非常に親しまれたギタリストでありました。前古典から現代曲、民俗的なギター曲にも挑戦。作曲、編曲、合奏指揮まで独自の道を歩む彼の姿勢は日本でも受け入れられました。バッハに傾倒し、圧倒的なテクニックで弾きこなし、ドイツ人らしい精神性を奏でる。「そのヴィルトゥオーゼ性、豊かな音色の美しさは、チェロのカザルス、ピアノのアラウにも匹敵する」とドイツ(ケルン)では称賛されましたし、マンドリン・オーケストラの指揮者としても活躍し、若いころの越智敬(マンドリン)や佐々木忠(ギター/リュート)も、合奏団で活躍しました。

日本では、アンドレス・セゴビア(1893-1987)の影響が強く、セゴビア・トーンといわれる豊かで芳醇なスペイン的な響きに心酔している傾向が多くみられましたが、自らの音楽を追求するベーレントの生き方は、愛好家に多くの支持得ていたのも事実でした。残念ながら 57 歳という円熟期に早世。

■ ベルリン・フィルの名手とともに展開される協奏曲

今回、ハイブリッド盤でリリースされるロドリゴの《アランフェス協奏曲》とカステルヌオーヴォ=テデスコのギター

協奏曲は、同じ 1966 年録音のソロ・アルバム『ギター・リサイタル』からの選択。それに他のアルバムに収録されていたヴィゼーとバッハの組曲や 20 世紀ドイツのアンブロジウスの組曲第 1 番、ベーレント自作の《日本民謡によるソナチネ》などを加えた独自の選曲、いわばベーレントというギタリストの多方面にわたる音楽家としての姿が網羅されています。いずれも定評あるベーレントの卓越した技巧と表現力を再認識していただくには絶好の一枚と言えるでしょう。

なお協奏曲で共演している指揮者ラインハルト・ペータース(1926-2008) は、マグデブルクに生まれ、ベルリンで亡くなったドイツの指揮者。ヴァイオリンとピアノをベルリン音楽大学、パリでマルグリット・ロンとジャック・ティボーに学び、1951年にブザンソン国際指揮者コンクールに優勝後、翌年からベルリン市立歌劇場などを指揮、1957年からライン・ドイツ・オペラ、1961年からミュンスター市立歌劇場、1970年からベルリン・ドイツ・オペラ、1975～79年までフィルハーモニア・フンガリカの首席指揮者を歴任して世界的に活躍、1959年に初来日して東京交響楽団を指揮後、1971年にNHK交響楽団に客演、80年代には新星日本交響楽団の客演常任指揮者を務めています。

■最高の状態での Super Audio CD ハイブリッド化が実現



協奏曲の収録はベルリン郊外ダーレムにあるイエス・キリスト教会で行われました。1970年代前半までベルリン・フィルの録音拠点とされていた場所で、高い天井を持ち、素晴らしい音響が得られることで定評のあった教会でした。上空が飛行機の空路になった、などの理由があったと言われていますが、70年代以降はベルリン・フィルの本拠地フィルハーモニー・ホールでの収録がメインになってしまいました。フィルハーモニー・ホールは後部にも座席があるため、豊かな低域が得られないのでは、という意見も当初は多く、イエス・キリスト教会の復活を望む声も多かったのが今でも印象的です。本作はそのベルリン・フィルの素晴らしい音が響き渡るイエス・キリスト教会での収録で、繊細なギターの音色も一際映えています。ギター協奏曲という音量バランスの難しい作品ですが、そこはグラモフォンの録音エンジニアの腕の見せどころ。鮮度の高いマスターテープに残されたサウンドが現代に甦りました。

本作もこれまで同様、使用するマスターの選定から、最終的な DSD マスタリングの行程に至るまで、妥協を排した作業をおこないました。特に DSD マスタリングにあたっては、「Esoteric Mastering」を使用。入念に調整された ESOTERIC の最高級機材 Master Sound Discrete DAC と Master Sound Discrete Clock を投入。また MEXCEL ケーブルを惜しげもなく使用することで、オリジナル・マスターの持つ情報を伸びやかなサウンドでディスク化することができました

■引き締まった速めの店舗で鮮やかに表現されたアランフェス。共演のベルリン・フィルの名手たちの妙技も素晴らしい

かつて《アランフェス協奏曲》の第 1 楽章のテンポが一部から速すぎると批判されたようだが、作曲家の指示は「アレグロ・コン・スピリート(生気をこめて、または元気よく)」であり、ベーレントはそれを引き締まった速めのテンポ

で鮮やかに表現しており、また共演しているベルリン・フィルの名手たちの妙技も大変すばらしい。そしてソロ曲におけるベーレントの様式感の確かな名演に加え、このハイブリッド盤ではグラモフォンの録音スタッフのすぐれた手腕を再認識するひとも多いのではないかと思う。

(本ディスク・ライナーノーツより・浅里公三氏)

日本では、1960～70年代はアンドレス・セゴビアの影響が強く、セゴビア・トーンといわれる豊かで芳醇なスペイン的な響きに心酔している傾向が多かったが、自らの音楽を追求するベーレントの生き方は、愛好家には支持された。57歳という円熟期に早世したことが、今更ながら惜しまれてならない。

(本ディスク・ライナーノーツより・朝倉信章氏)

[収録曲]

ホアキン・ロドリゴ Joaquín Rodrigo

アラフエス協奏曲 ギターとオーケストラのための

Concierto de Aranjuez for Guitar and Orchestra

1. 第1楽章: Allegro con spirito
2. 第2楽章: Adagio (Cadenza: Joaquín Rodrigo)
3. 第3楽章: Allegro gentile

マリオ・カステルヌオーヴォ＝テデスコ Mario Castelnuovo-Tedesco

ギター協奏曲 二長調 作品 99

Concerto for Guitar and Orchestra in D major, Op. 99

4. 第1楽章: Allegretto
5. 第2楽章: Andantino alla Romanza
6. 第3楽章: Ritmico e cavalleresco

マロベール・ド・ヴィゼー Roberto de Visée

ベーレント編 Arranged for Guitar by Siegfried Behrend

組曲 二短調

Suite in D minor

7. 第1曲: Prelude
8. 第2曲: Allemande
9. 第3曲: Courante
10. 第4曲: Gavotte
11. 第5曲: Sarabande
12. 第6曲: Bourrée
13. 第7曲: Menuett
14. 第8曲: Gigue

ヨハン・セバスティアン・バッハ Johann Sebastian Bach

リュート組曲 第1番 ホ短調 BWV996

Suite for Lute No. 1 in E minor, BWV 996

15. 第1曲: Präludium

16. 第 2 曲: Allemande
17. 第 3 曲: Courante
18. 第 4 曲: Sarabande
19. 第 5 曲: Bourrée
20. 第 6 曲: Gigue

フェルナンド・ソル Fernando Sor

モーツァルトの主題による変奏曲 作品 9

21. Variations on a theme by Mozart, Op. 9

マウロ・ジュリアーニ Mauro Giuliani

ベーレント編 Arranged for Guitar by Siegfried Behrend

ソナチネ 第 1 番 作品 71 の 1

Sonatine, Op. 71 No. 1

22. 第 3 楽章: Rondo

ヘルマン・アンブロジウス Hermann Ambrosius

ベーレント編 Arranged for Guitar by Siegfried Behrend

組曲 第 1 番 イ長調

Suite No. 1 in A major

23. 第 1 曲: Präludium (Andante)
24. 第 2 曲: Anglaise (Vivace)
25. 第 3 曲: Sarabande (Andante)
26. 第 4 曲: Bourrée (Vivace)

ジークフリート・ベーレント Siegfried Behrend

日本民謡によるソナチネ

Sonatina on Japanese Folk-Songs

27. 第 1 曲: 五木の子守歌 Itsuki no komoriuta
28. 第 2 曲: よさこい節 Yosakoi bushi
29. 第 3 曲: 出船. Defune

ジークフリート・ベーレント(ギター)

Siegfried Behrend, Guitar

ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団[1-6]

Berliner Philharmoniker

指揮: ラインハルト・ペーターズ[1-6]

Conducted by Reinhard Peters

[録音]1966年5月9日~13日、イエス・キリスト教会、ベルリン[1-6]、1066年5月31日~6月2日、UFAスタジオ、ドイツ・グラモフォン[7-29]

[海外盤初出]139 166(協奏曲、1967年3月)139 167(リサイタル、1967年4月)

[日本盤初出]SLGM-1373(協奏曲、1967年3月)SLGM-1378(リサイタル、1967年4月)

[オリジナル・レコーディング]

[レコーディング・プロデューサー]ハンス・ウェーバー

[レコーディング・エンジニア] クラウス・シャイベ

[テープ・エディター] ウォルフガング・ワーナー [1-6]、フォルカー・マルタン [7-29]

[Super Audio CD リマスタリング]

[Super Audio CD プロデューサー] 大間知基彰 (エソテリック・マスタリング・センター)

[Super Audio CD アソシエイト・プロデューサー] 吉田穰 (エソテリック・マスタリング・センター)

[Super Audio CD リマスタリング・エンジニア] 東野真哉 (エソテリック・マスタリング・センター)

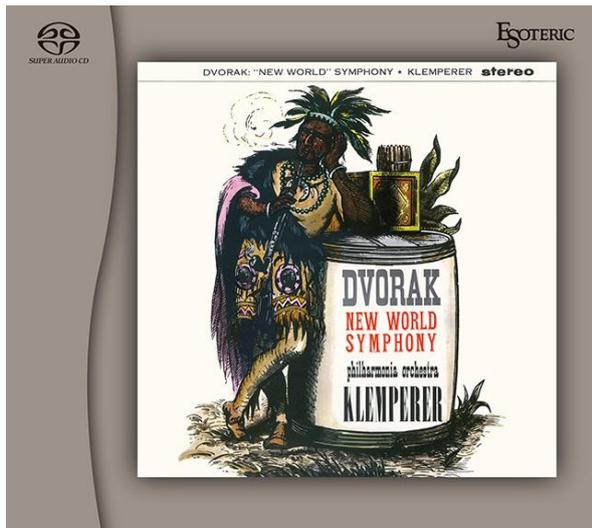
[[Super Audio CD リマスター] 2025年6月 エソテリック・オーディオルーム、「Esoteric Mastering」システム

[解説] 浅里公三 朝倉信章

[企画・販売] ティアック株式会社

[企画・協力] 東京電化株式会社





ドヴォルザーク:交響曲 第9番《新世界より》
シューベルト:交響曲 第8番《未完成》

オットー・クレンペラー(指揮)
フィルハーモニア管弦楽団

品番:ESSW-90313
仕様:Super Audio CD ハイブリッド
価格:4000円(税込み)
JAN:4907034225941
レーベル:WARNER CLASSICS(旧 EMI)
音源提供:ワーナーミュージック・ジャパン
ジャンル:交響曲

ES Esoteric
Mastering

[アルバムの特徴]

晩年に名演を多く排出した巨匠による、彼ならではの独自の世界。

最もクラシック音楽の録音が隆盛を極めていた時期の EMI を代表する演奏。

■ ESOTERIC ならではのこだわりの Super Audio CD ハイブリッド・ソフト

オリジナル・マスター・サウンドへの飽くことなきこだわりと、Super Audio CD ハイブリッド化による圧倒的な音質向上で継続して高い評価をいただいている ESOTERIC による名盤復刻シリーズ。発売以来決定的名盤と評価され、現代にいたるまでカタログから消えたことのない名盤をオリジナル・マスターから進化したテクノロジーと感性とによって DSD マスタリングし、世界初の Super Audio CD ハイブリッド化を実現してきました。今回はワーナー・クラシックス(旧 EMI)の名盤から、代表する名演・名録音を Super Audio CD ハイブリッドで発売いたします。

■ 波乱万丈の生涯を送った真の巨匠、クレンペラー

19世紀生まれの最後の巨匠、オットー・クレンペラー(1885-1973)ほど波乱に富んだ生涯を送った指揮者は居ないでしょう。ドイツ北部のブレスラウ(現ポーランドのヴロツラフ)に生まれ、4歳からハンブルクでピアノを学び、1905年にベルリンでオスカー・フリート指揮のマーラーの交響曲第2番《復活》で副指揮者を務めます。さらに同曲のピアノ版編曲をマーラーに評価され、1906年に代役でラインハルト演出によるオッフェンバックの喜歌劇《天国と地獄》を指揮して大成功をおさめた後、マーラーの推薦で1907年からブラハのドイツ歌劇場の指揮者に採用され、指揮者として本格的な活動を開始しました。



その後は 1910 年以後、ハンブルク、ストラスブール、ケルン、ヴィー
スバーデンなどドイツ各地の歌劇場の首席指揮者、音楽監督を歴任
するとともにヨーロッパ各地やソ連に客演、1924 年からベルリン・フィ
ルと国立歌劇場も指揮して名声を高めます。当時のベルリンは芸術的
に最も繁栄していた時期といわれ、フルトヴェングラー、E.クライバー、
ワルターなども活躍していましたが、クレンペラーは斬新な演出によ
るモーツァルト、ワーグナー、イタリア・オペラの他、ストラヴィンスキー、
シェーンベルク、ヒンデミット、ヤナーチェク、ヴァイル他の新作オペラ
を上演。コンサートでも現代音楽を積極的に演奏するなど、広いレパ
ートリーを披露していましたが、ナチスが政権を握った 1933 年にアメリカに亡命します。

■ 何度も起こる不慮の事故

この間、クレンペラーは電気録音を実現した 1925 年頃からベルリン国立歌劇場管弦楽団とベートーヴェンの交響曲第 1・8 番、シューベルトの《未完成》、ブラームスの第 1 番、R. ショトラウスの交響詩などを録音して注目され、渡米後は 1933 年からロスアンジェルス・フィルの音楽監督に就任後は全米各地に客演します。ところが第 2 次大戦が勃発した 1939 年 9 月に脳腫瘍を発症、大手術から回復後も右半身に麻痺が残り、手術の影響で再発した多幸症による不適切発言などでロスアンジェルス・フィルを解任され、一時は再起不能説も流れました。

クレンペラーは病気や怪我に悩まされながら自費でコンサートを開催、1944 年にはシェーンベルク生誕 70 年記念公演、大戦が終了した 1945 年にストラヴィンスキーと共同開催したロシア音楽祭を指揮、1946 年に 13 年ぶりにヨーロッパに戻り、1947 年にザルツブルク音楽祭に 14 年ぶりに出演、1951 年に初めてフィルハーモニア管弦楽団に招かれ大成功をおさめた後、南北アメリカに客演中、モンリオール空港でタラップから転落して骨折、またもや長期入院を強いられます。さらに追い打ちをかけられるかのようにアメリカで共産主義者に疑われて活動を中断されます。1954 年に西ドイツ国籍を取得してからスイスのチューリヒを拠点に再開、EMI と契約して 10 月からフィルハーモニア管弦楽団との録音を開始し、ここにきてやっと世界的に名声を獲得しはじめたのです。



■ ついに獲得した名声

晩年のクレンペラーを語るうえで EMI の大プロデューサー、ウォルター・レグの存在を無視することはできないでしょう。クラシック部門の重鎮であった彼はフルトヴェングラー、カラヤン、夫人となった名花シュヴァルツコップ、そしてマリア・カラスなど多くのスターを登用します。それと同時に彼は 1945 年、第 2 次対戦で職を失っていた実力のある演奏家を集めて「フィルハーモニア管弦楽団」を結成します。EMI のクラシック部門のために演奏するオーケストラです。縦横無尽の活動をしていたレグですが、カラヤンが 50 年代半ばにベルリン・フィル専属となり、フィルハーモニア管弦楽団としては新しい指揮者を求めることになります。そこで白羽の矢が立ったのがクレンペラーでした。実力に比して評価が低かった彼はこれを機に再び甦ったのです。

1955 年からフィルハーモニア管弦楽団を中心に活躍して名声を高めたのが 70 歳の時。1959 年から終身首席指揮者に就任。本作は、そのまさにやっとな迎えた全盛期に録音されたクレンペラー／フィルハーモニア管弦楽団の名演なのです。



■名演を数多くリリースした EMI 時代と演奏スタイルの変化

こうした安定期のなかでも事件は起こっていました。63 年ウォルター・レッグは EMI 経営者との見解の相違もあったので、退職してしまいます。その後フィルハーモニア管弦楽団も解散、途方に暮れたのはメンバーです。クレンペラーも協力してニュー・フィルハーモニア管弦楽団が再結成され、その後も活動することになります。そうした騒動の少し前、クレンペラーとレッグの蜜月と言ってもいいような安定した関係、名演を数多くリリースしていた黄金時代の記録がここに残されているのです。ところでクレンペラーの演奏、とくにテンポ設定に関して、彼のスタイルはこの晩年になり一変しています。これはレッグのアドバイスによるものなのか、はたまた長年の闘病による体の問題なのか、以前とは違って、じっくりゆったりした方向に転換します。ただし曲の細部までの深い彫琢に変わりはありませんでした。このあたりも聴き取って頂きたいところです。ともあれ、1972 年に引退するまでも多幸症の再発や怪我、大火傷などで活動をたびたび中断しても不死鳥のように再起した、音楽家としてだけでなく、人生全般を通しての「不屈の巨匠」、それがクレンペラーなのです。

■最高の状態での Super Audio CD ハイブリッド化が実現



レコーディングはロンドンのキングズウェイ・ホールで行われました。1912 年に設立され 1983 年まで数多くの名録音を残しています。EMI ではアビーロード・スタジオと同じく当ホールもレコーディング場所としてフル活用していましたが、同様にデッカもロンドンではこのホールを使うなど、音響的にも非常に優れたアコースティックを持っていました。地下にあるホールでその下には地下鉄が通っていたとも言われ、制作スタッフとしては苦勞が絶えなかったようですが、それ以上に音響の素晴らしさがあった名ホールでした。座席数 2000、漆喰を塗った壁面や木製の床に響きに秘密があるとも言われた繊細な残響が美しいホールで、その音響ゆえ、時に中高域にアクセントを持つクレンペラーの録音でしたが、それを包み込むような芳醇さが記録されています。

本作もこれまで同様、使用するマスターの選定から、最終的な DSD マスタリングの行程に至るまで、妥協を排した作業をおこないました。特に DSD マスタリングにあたっては、「Esoteric Mastering」を使用。入念に調整された ESOTERIC の最高級機材 Master Sound Discrete DAC と Master Sound Discrete Clock を投入。また MEXCEL ケーブルを惜しげもなく使用することで、オリジナル・マスターの持つ情報を伸びやかなサウンドでディスク化することができました。

■これがクレンペラーの比類ない芸術性なのだ

《新世界より》と《未完成》は、初出時は遅いテンポも話題になったが、低弦を土台に緊密に彫琢された明晰な響

きと細やかな表現もすばらしく、交響曲の様式に民俗的な要素を見事に融合したドヴォルザーク、瑞々しいロマン的な情感をたたえたシューベルトは、まさにクレンペラーならではの名演であり、それらをより明確に聴けるのもハイブリッド盤ならではの魅力であろう。

(本ディスク・ライナーノーツより・浅里公三氏)

やぼったいほどドイツくさい《新世界より》だが、そのやぼったさに胸がわくわくしてしまうのだから、クレンペラーの芸格の高さは無類と言えよう。ティンパニのおどろくほどの弱さに象徴されるように民俗色などクスリにしたくもなく、蒼古雄大な音楽が展開される。

(レコード芸術・編『ONTOMO MOOK 名曲名盤 300 』より・宇野功芳氏コメント)

クレンペラー節まるだしのドヴォルザークであって、私たちがドヴォルザークの音楽に期待しがちなローカルな匂いはほとんどどこにもない。それどころか、これはクレンペラー節に彩られたドイツ音楽にすっかり変身している。しかしながらクレンペラーの剛毅な音楽が私たち聴き手の胸にガツンと響く。これがクレンペラーの比類ない芸術性なのだ

(旧ディスク TOCE12101 ライナーノーツより・松沢氏)

[収録曲]

アントニン・ドヴォルザーク Antonín Dvořák

交響曲 第9番 ホ短調 作品95《新世界より》

Symphony No. 9 in E minor, Op. 95 "From the New World"

1. 第1楽章: Adagio - Allegro molto
2. 第2楽章: Largo
3. 第3楽章: Scherzo (Molto vivace)
4. 第4楽章: Allegro con fuoco

フランツ・シューベルト Franz Schubert

交響曲 第8番 口短調 D.759《未完成》

Symphony No. 8 in B minor, D. 759 "Unfinished"

5. 第1楽章: Allegro moderato
6. 第2楽章: Andante con moto

フィルハーモニア管弦楽団

Philharmonia Orchestra

指揮: オットー・クレンペラー

Conducted by Otto Klemperer

[録音] 1963年10月30~11月2日(新世界より)、1963年2月4&6日(未完成)、キングズウェイ・ホール、ロンドン

[海外盤初出] SAX2554(新世界より、1964年)、SAX2514(未完成、1964年)

[日本盤初出] AA7203(新世界より、1965年3月)、AA7051(未完成、1964年5月)

[オリジナル・レコーディング]

[プロデューサー] ウォルター・レグ

[レコーディング・エンジニア]ダグラス・ラーター

[録音]1966年5月9日～13日、イエス・キリスト教会、ベルリン[1-6]、1966年5月31日～6月2日、UFAスタジオ、ドイツ・グラモフォン[7-29]

[海外盤初出]139 166(協奏曲、1967年3月)139 167(リサイタル、1967年4月)

[日本盤初出]SLGM-1373(協奏曲、1967年3月)SLGM-1378(リサイタル、1967年4月)

[オリジナル・レコーディング]

[レコーディング・プロデューサー]ハンス・ウェーバー

[レコーディング・エンジニア]クラウス・シャイベ

[テープ・エディター]ウオルフガング・ワーナー[1-6]、フォルカー・マルタン[7-29]

[Super Audio CDリマスタリング]

[Super Audio CD プロデューサー] 大間知基彰(エソテリック・マスタリング・センター)

[Super Audio CD アソシエイト・プロデューサー] 吉田穰(エソテリック・マスタリング・センター)

[Super Audio CD リマスタリング・エンジニア] 東野真哉(エソテリック・マスタリング・センター)

[[Super Audio CD リマスター] 2025年5月 エソテリック・オーディオルーム、「Esoteric Mastering」システム

[解説] 浅里公三 川瀬 昇

[企画・販売] ティアック株式会社

[企画・協力] 東京電化株式会社

